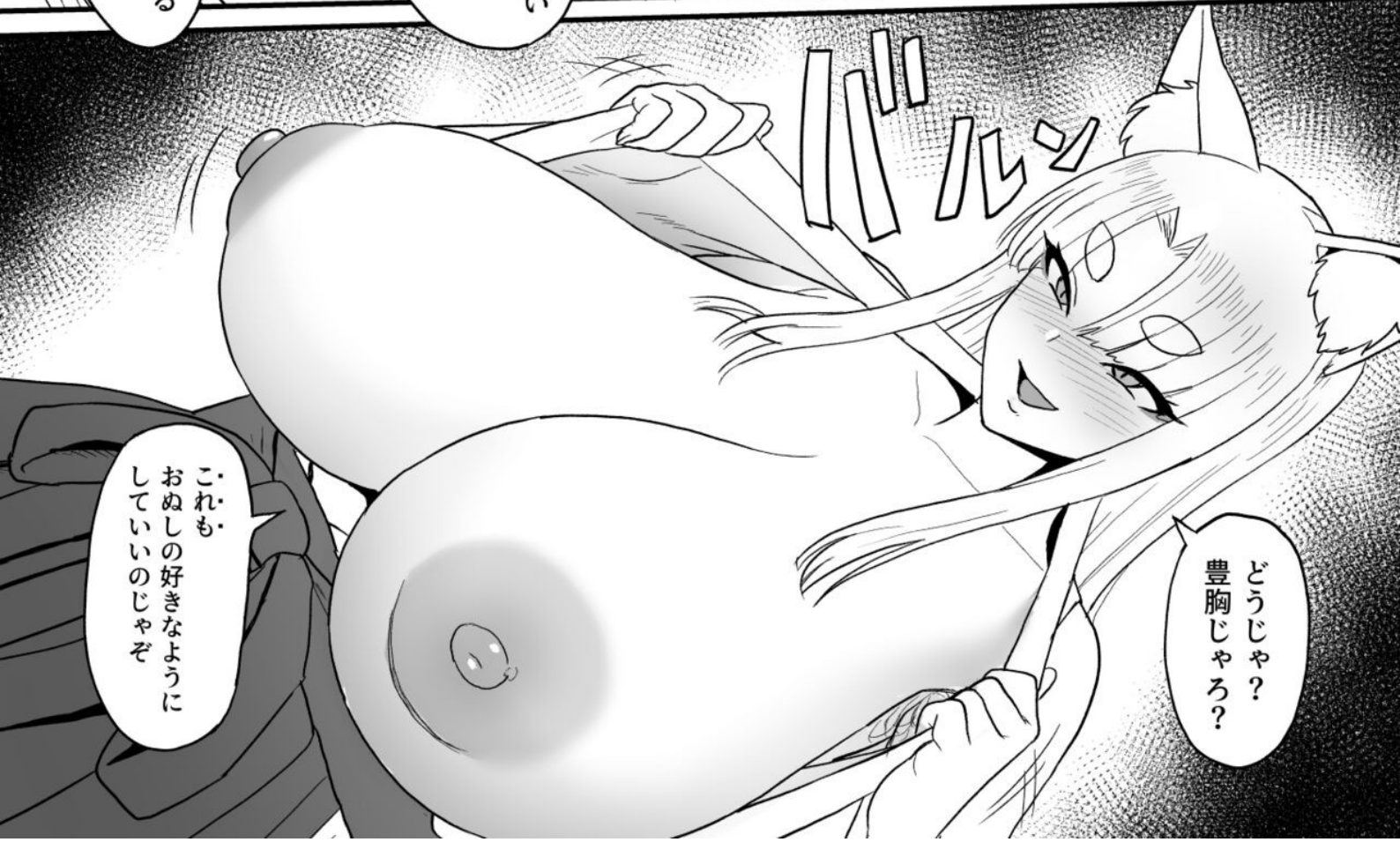


わらわにはわかるぞ  
怯えてはおるが  
わらわの体に欲情して  
いることがな

警戒しておる  
ようじゃな  
安心せい  
共に甘美な肉欲に  
堕ちようぞ

別に悪いことではない  
むしろ嬉しいのじゃ  
わらわのことを  
もっと知ってほしい

わらわの夫となる  
その身でな



どうじゃ？  
豊胸じゃろ？

これも  
おぬしの好きなように  
していいのじゃぞ



ここは神の国じゃ  
人間界とは全く  
違う世界じゃ

やれやれ

人間どもめ  
やっとわらわの夫となる者を  
よこしよったわ



さあ  
存分にまぐ合おう♥

わらわは  
準備万端じゃ♥





男児を一人にして置くと神隠しに  
遭うと噂されている神社で  
かくれんぼをしていたまこと君は  
隠れるのがうますぎて友達に見つけてもらえず  
置き去りにされたままみんな帰ってしまった  
それに気づき慌ててその場から出ると  
そこはまるで別の世界であった



人間共め  
やっとならわの夫となる  
者を寄越しおった  
数百年待ったぞ

しかしなかなかどうして  
わらわ好みの男おのこじゃ

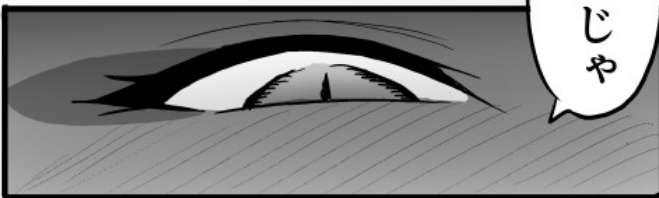
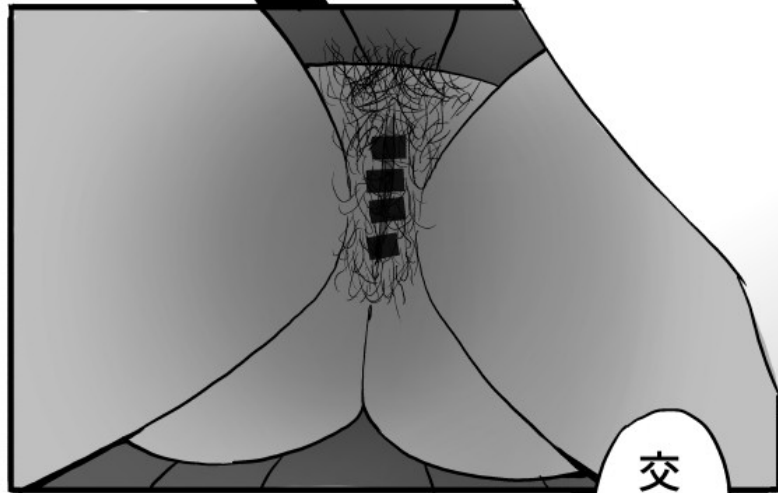
何だろう  
ドキドキする

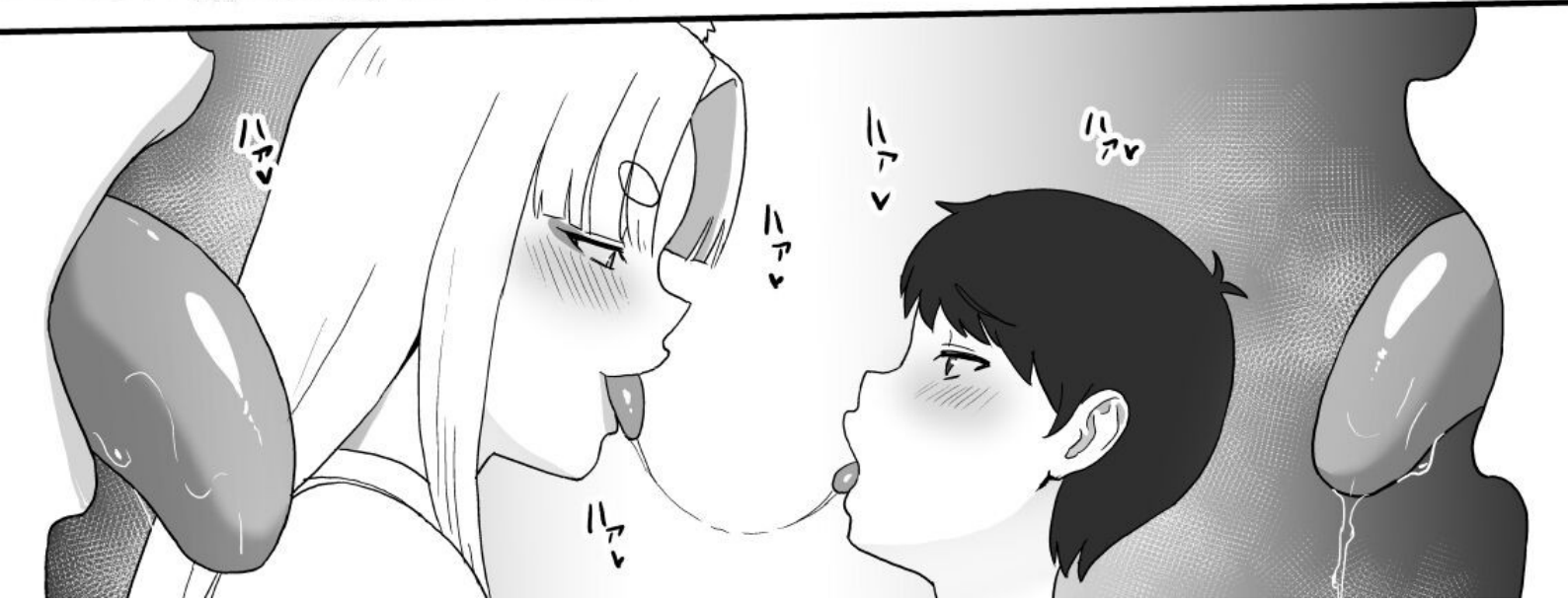
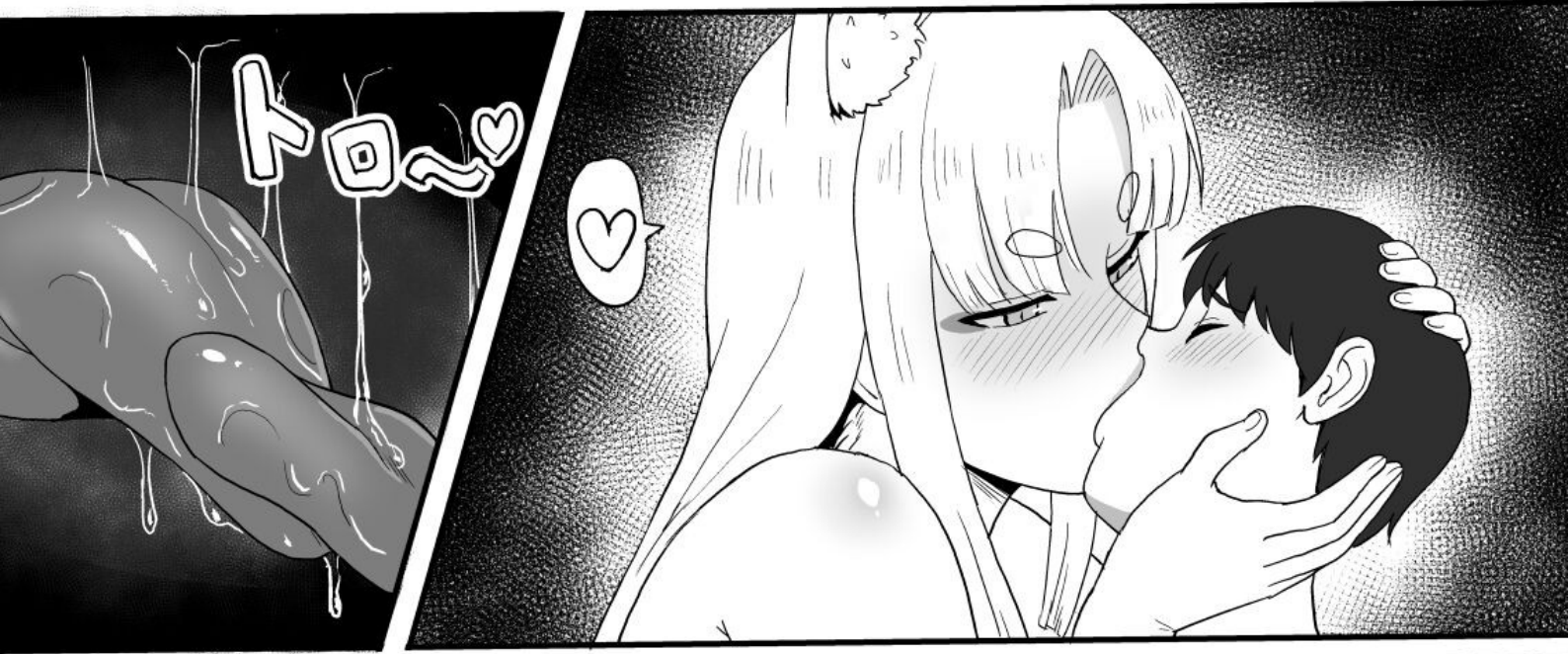
では早速始めるか  
わらわの準備は万端じゃ

交合じゃ

え？  
何を？

ム





どうじゃ？  
豊胸じゃろ？

はっ  
いっ

気に入ってくれた  
ようじゃな

むぎゅ

柔らかい

フッフ  
オスの匂いが  
濃くなってる  
ておるのう

ゴイン

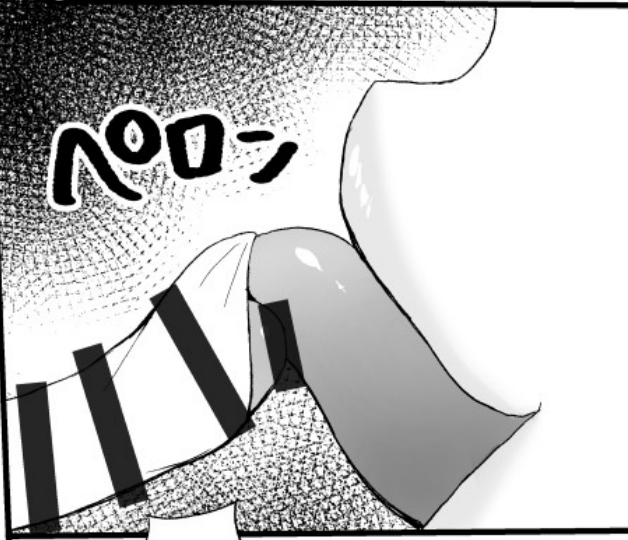


おーこれはなんと  
可愛い

さてまずは  
上の口で味わっ  
てみようかのう



ますます聞きた  
くなるではないか



アッ



可愛い声を  
あげよってからに





わらわの脇の匂いを  
たんと嗅ぐのじゃ

く、臭い...♥

スーッ

くっく



わらわとの  
相性バツチリ  
じゃな♥

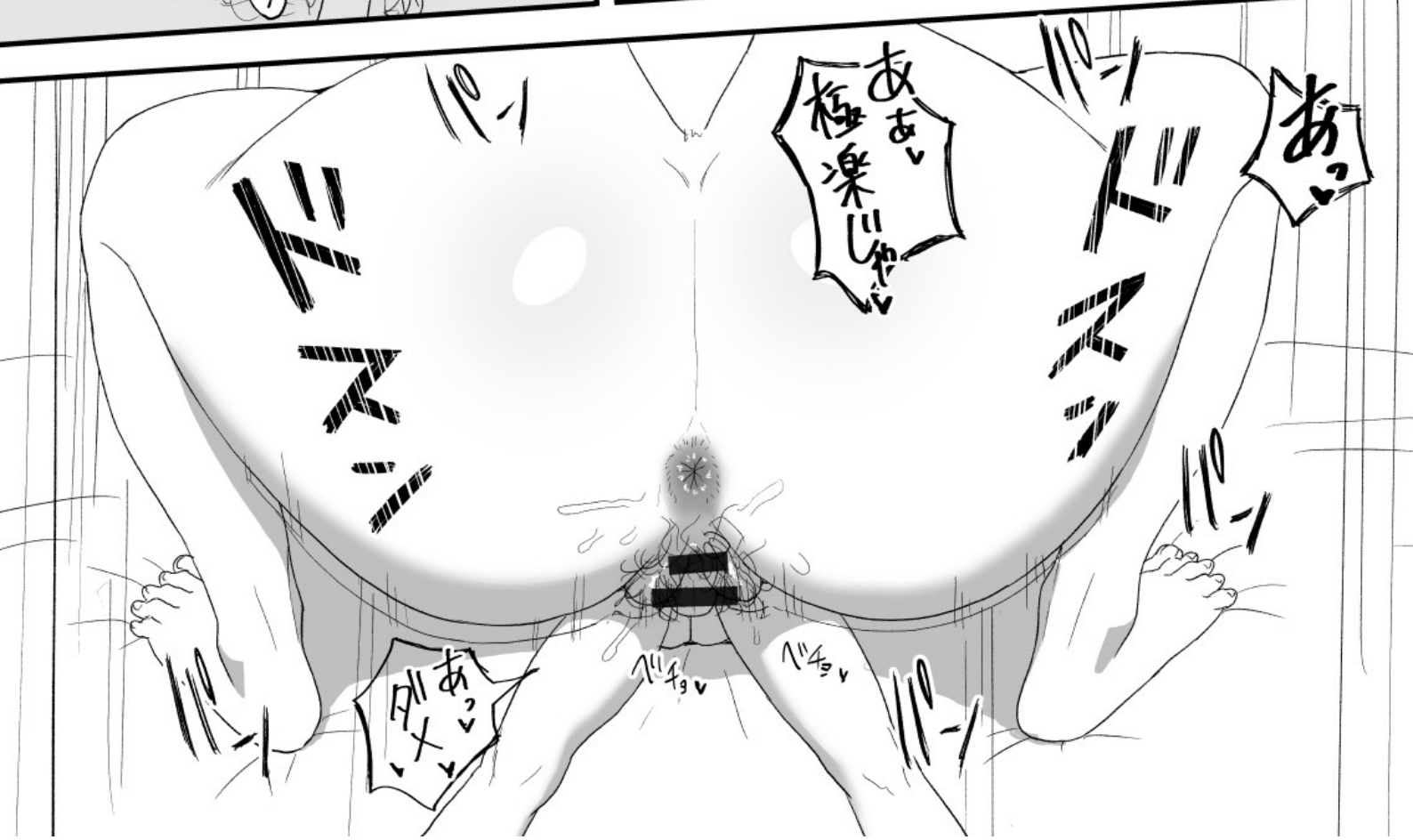
でも嗅ぐの  
やめられない♥

ぐわんぐわん...v



そうじゃわらわに  
身を任せるのじゃ

そなたのを食べたくて  
わらわのこゝもよだれを  
たらしめておる♥



アッ

アッ

フッフ  
わらわの膣<sup>なか</sup>内で  
大暴れじゃ



あゝ

うっ  
腰が止まらぬ



アッ  
アッ  
アッ  
アッ  
アッ

あゝ



大盛欲

あっ♡  
乳はまだ出んぞ

むん♡

汗を舐めるのじゃ

ふん♡

ん

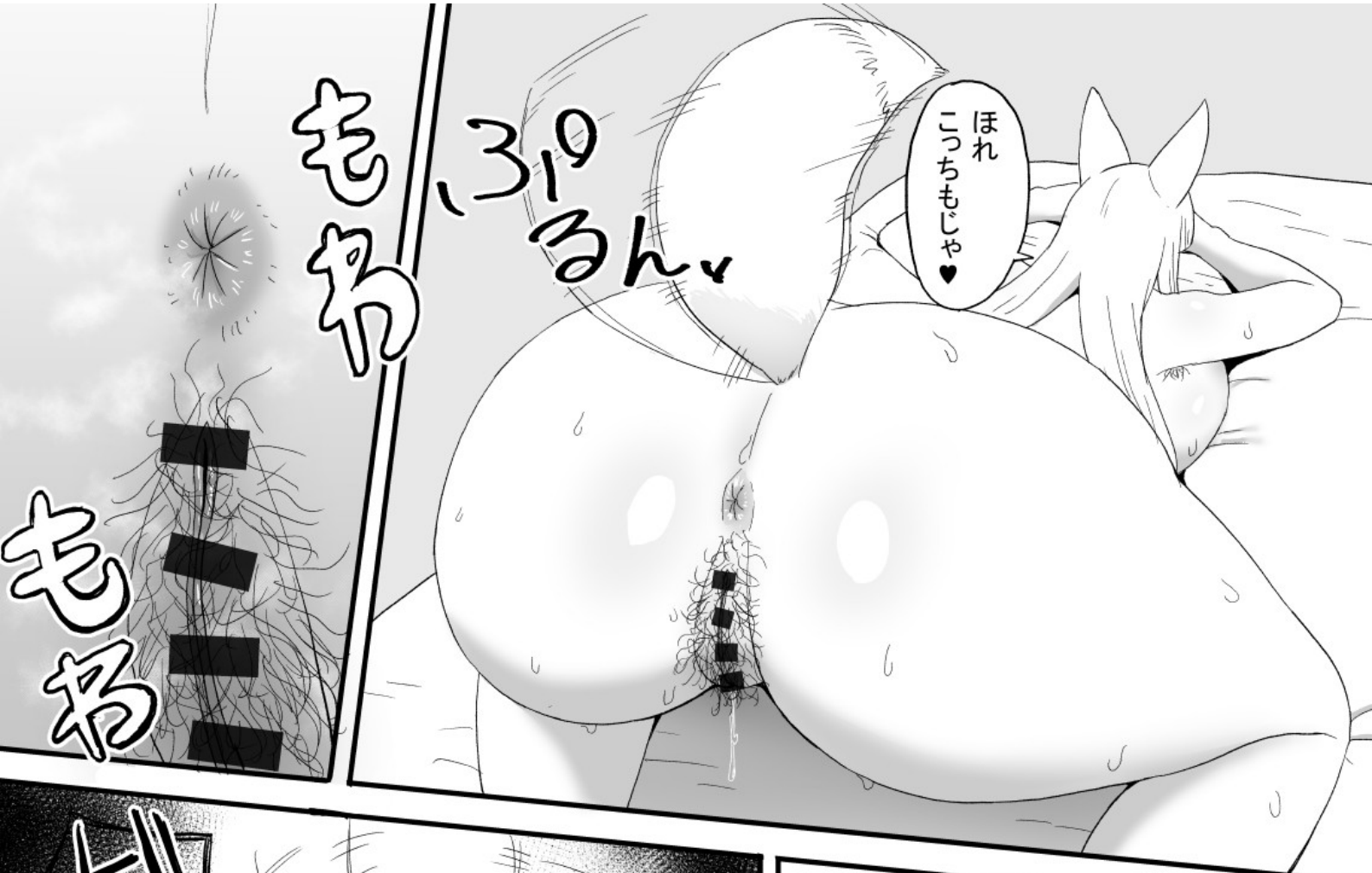
ん

あー…  
極楽じゃ…♡

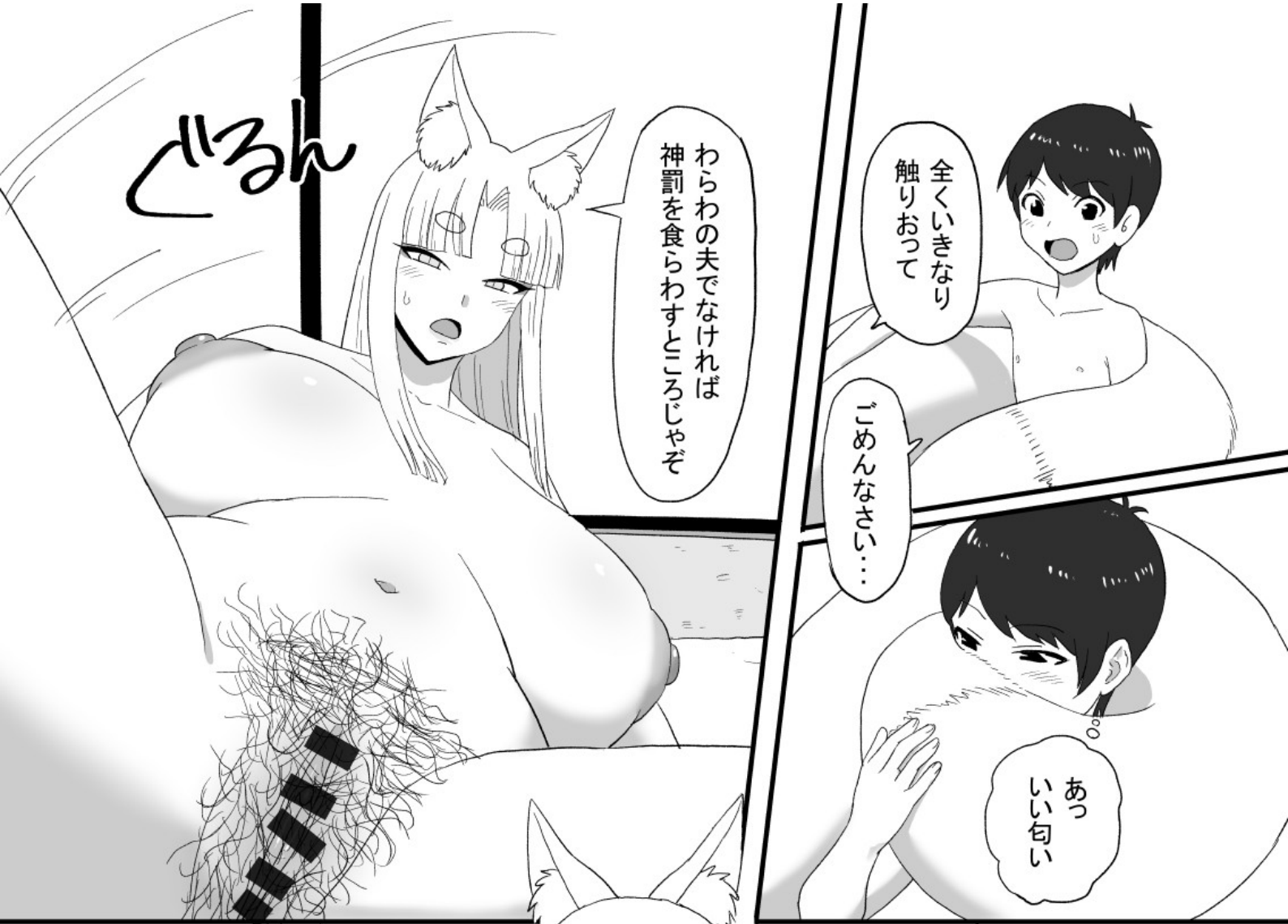
ふん♡

ふん♡















アユ〜♡

まるでやこの  
ようじゃな

アユ♡  
アユ♡

アユ♡  
アユ♡



うちに帰らなきゃ



し〜ん

⋮

あれ？  
このままじゃ  
ヤバんじゃないの…？



さてそろそろ  
夕餉の支度をせんとなあ  
腕が鳴るのう

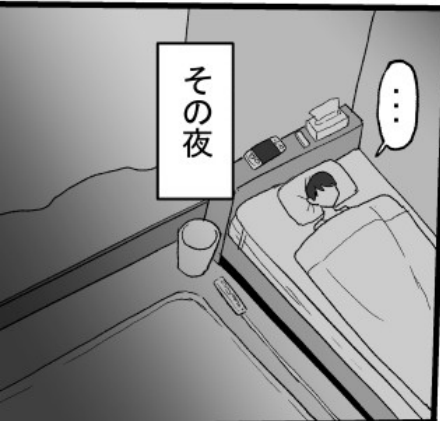
BANG  
BANG



ドボン



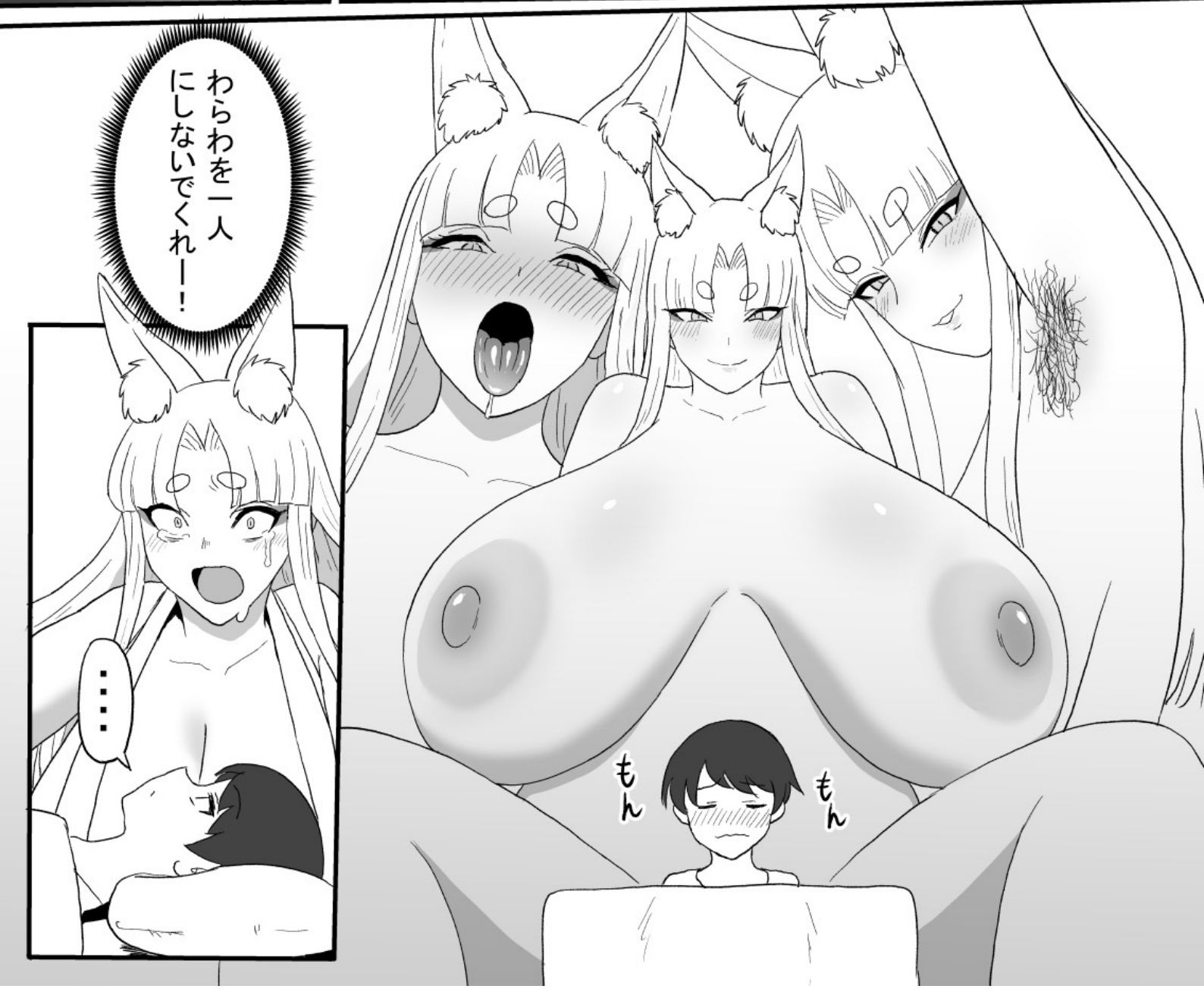
帰ってこれた...？



その夜

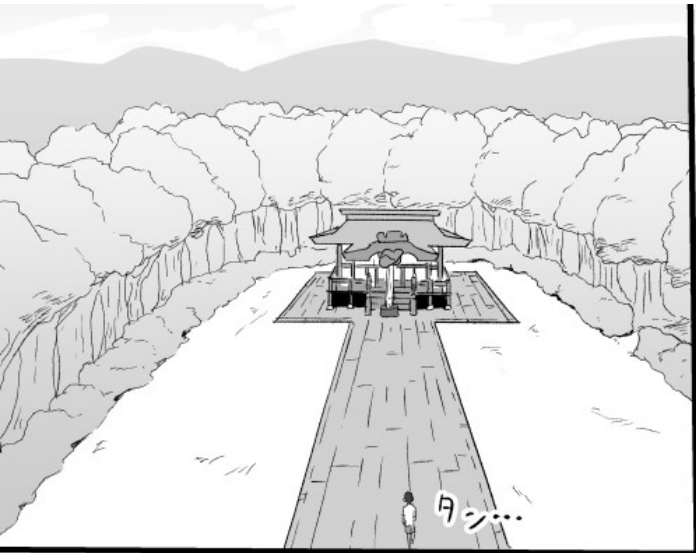


まこと君が家に帰ると  
帰りが遅い！と  
母親にカンカンに  
怒られました



わらわを一人  
にしないでくれー！

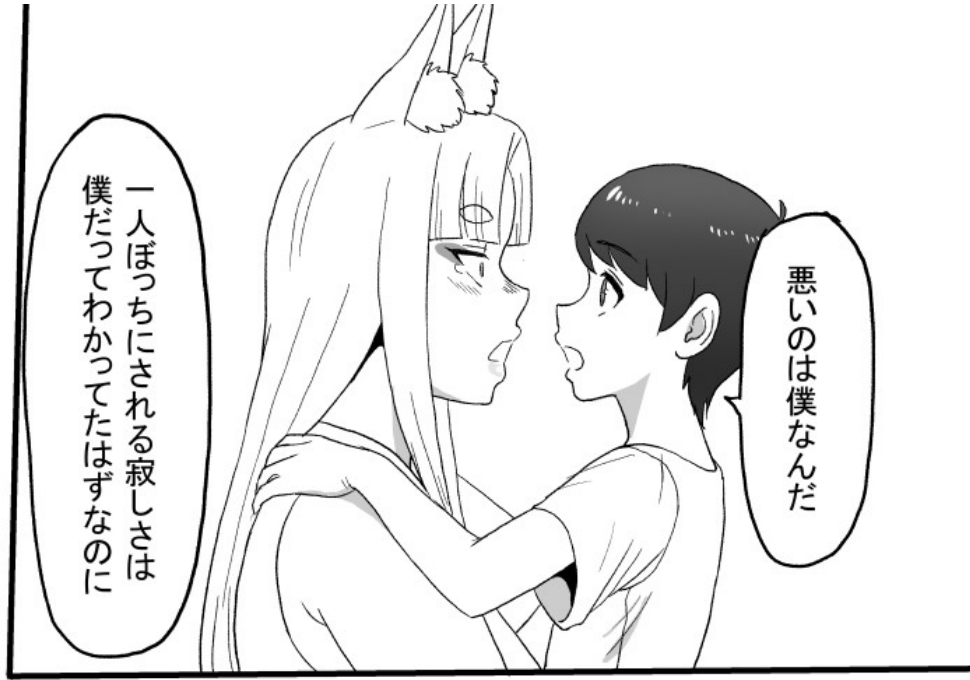
もんもん







クリ  
すん



悪いのは僕なんだ

一人ぼっちにされる寂しさは  
僕だっってわかってたはずなのに



まこちゃん

トッ  
トッ



ううう  
もう絶対に離さん！  
いほいお作りまさんいゃー

でも  
もう一人ぼっち  
じゃないなら…

えり!とさま  
一生ここに居るの?  
やったー  
おえんで

ギリ  
ッ



こうして少年は神隠しに遭い  
二度と現世に姿を  
見せることはなかった

「飯よ  
降りてらっしゃい

というのは嘘で  
両親に神様と結婚した  
事を伝え  
自分たちの子供たちと実家に  
遊びに来たりして両親を  
悲しませることはせず  
神様ともラブラブで  
末永く暮らしましたとき

● おわり